

共に語ろう…緩和医療チームと薬剤師の未来

9月に千葉市内で開かれた第5回日本緩和医療薬学会年会では、「共に語ろう…緩和医療チームと薬剤師の未来」をメインテーマに21のシンポジウム、72題の口頭発表、197題のポスター発表が行われた。設立から5年目を迎えた同学会がますますの発展を遂げていることがうかがえた。

日本緩和医療薬学会年会

シンポジウム「次世代の薬剤師緩和ケア—薬剤師プログラムを考える」では、藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座の村井美代氏が医師の緩和ケア研修に“薬剤師枠”を設け、同院以外からも多くの病院薬剤師、開局薬剤師が参加するユニークな多職種研修の取り組みが紹介された。

厚生労働省の「がん対策推進基本計画」では、癌診療に携わる全ての医師が、研修会などで緩和ケアの知識を習得することが目標として掲げられている。

これに基づいて同院では、2009年から研修会を開催しているが、看護師や薬

剤師、作業療法士、臨床心理士など多職種が協力者として参加している。薬剤師は毎回2~3人ずつが受講しているほか、ファシリテーター役としても参加する。

薬剤師の参加者に合わせて、ロールプレイには薬剤師バージョンのシナリオも作成された。参加者は同院薬剤部のスタッフに限らず、広く近隣の病院や保険薬局からも受け付けているのが特徴。参加した薬剤師からは「医師と貴重な意見交換ができた」など、多職種による研修を歓迎する意見が寄せられているという。

薬業連携強化で麻薬処方発行

ポスター発表の多くは疼痛管理

ポスター発表では、疼痛管理に関する話題が多くを占めた。この中で静岡県立総合病院薬剤部からは、薬業連携を強化して麻薬処方箋の院外発行を拡大するなどの取り組みが報告された。

同院では08年3月から、麻薬処方箋の院外発行をスタートした。病院薬剤師が退院前



に、患者のかかりつけ薬局に麻薬の応需意向を確認するなど、薬業連携を強化することで体制を整備。3年間で麻薬処方箋の院外発行人数は11人から72人へ、処方箋枚数も21枚から139枚へと大幅に増加した。

静岡市内の保険薬局を対象に実施したアンケートによると、医療用麻薬の服薬指導では、薬効や用法・用量、副作用など基本的な点については、8割程度の施設で実施されていた。一方、痛みのモニタリングは3割程度、副作用モニタリングは半数弱の実施率であった。外来での疼痛管理において、薬局薬剤師によるモニタリングが不十分なことが課題として浮き彫りになった。

日本医療薬学会年会

10月に神戸市で開かれた第21回日本医療薬学会年会では、癌領域の薬剤経済学が話題の1つになった。約10年前から、従来の抗癌剤とは異なったメカニズムで作用する分子標的治療薬が次々に登場してきた。これらの新薬は、生存期間を数カ月延長するなどの効果がある一方、その高い薬価は患者の負担増、医療費増加の要因にもなっている。薬剤師は、薬の値段と効果のバランスを考慮して、医薬品の採用や薬剤選択を行うことが必要とされた。

価値に見合った薬価に

シンポジウム「がん薬物療法と薬剤経済学」で池田俊也氏（国際医療福祉大学薬学部）は、「医療費の高騰が大きな社会問題になっている。価

格に見合った価値がその薬にあるのかどうかという評価が、社会から求められている」と問題提起した。

薬剤の費用対効果の分析には、様々な手法がある。薬剤費だけを単純に比較するだけでなく、他の医療費や医療費以外の費用も含めて比べたり、休職などによる患者の経済的損失まで含めて比べる手法がある。また、生存期間に加え、QOLの維持期間まで含めて評価する手法もあるという。

池田氏は、米国では多くの薬剤師が、薬剤経済学のデータを院内の採用医薬品の決定に活用していると説明。日本においても、医薬

品採用時、患者への薬剤選択、他の医療者への情報提供などの場面でデータを活用したり、自ら薬剤経済の研究を実施することは、「薬剤師の職能の1つとして大いに期待される」と語った。

6年制の薬学教育では、薬剤経済学は必須科目となっている。薬学生にその講義を行っている池田氏は、大学で学んだ薬剤経済学の知識を臨床現場で幅広く活用するよう、薬学生に期待を示した。

病院薬剤師として臨床現場で働く伊勢雄也氏（日本医科大学付属病院薬剤部）は、緩和医療に用いられるモルヒネ徐放錠とオキシドロン徐放錠などについて、患者のQOLも含めて費用対効果を比較した分析結果を紹介した。

「臨床現場でも簡単に、薬剤経済学を専門としない人間でも分析を行える」とし、「自院の治療について、経済評価を行って他の医療従事者に情報提供することは、経済効率の良い医療を行うために重要ではないか」と呼びかけた。



シンポジウムの演者

薬剤経済学の視点、現場で活用を

青本RENEWAL!! 6年制対応の決定版



医学アカデミーは 35周年をむかえました

●薬剤師国家試験対策 参考書(青本)

POINT1 青本×WEB (よくある質問を、薬ゼミ講師が動画で解説!)

特に理解の難しい箇所や質問が多い箇所をピックアップし、Q&A方式で分かりやすい解説動画をWEB上に公開します。青本×WEBの両輪で、より合理的な自主学習を実現できるようになりました。2011.5.1より配信開始!

POINT2 「実務」を重視 (すべてのテキストが実務テキスト(青本⑨)とリンク!)

新国家試験では「実務」に関する問題が多く出題されるため、これまで以上に臨床的・実践的な知識の獲得が必須です。青本では、実務テキスト「青本⑨」と他のテキスト「青本①~⑧」を連動させることで複合問題に対する学習効率をアップします。

POINT3 症例問題集 (薬学実践問題対策として、症例問題集(青本⑩)を追加!)

新国家試験の大きな特徴は、総合力・問題解決能力を問う薬学実践問題が、全345問中150問(複合問題130問を含む)を占めていることです。青本⑩/症例問題集は、具体的な症例・処方に対して各科目のテキスト「青本①~⑧」とリンクしているので内容のつながりがわかりやすく、複合問題対策も万全です。

「薬ゼミ」には、開校35年の伝統と全国No.1の実績があります。特記すべきことは、近年の受講者数が2000名を超えているにもかかわらず、高合格率を維持していることです。私たち「薬ゼミ」の教室にはあなたを薬剤師国家試験合格へと導くさまざまなサポートがあります。



●薬学実践問題集 複合300

POINT

- ・6年制国試の「薬学実践問題」に対応!
- ・この1冊で複合問題も万全!
- ・国家試験2年分の300問を収録!



●領域別既出問題集(全9冊)

・第89~95回までの過去7年分の問題を出題基準に沿って領域別に分冊しました。

●第96回既出問題集

・最新の国家試験問題を新国家試験形式に改編し、1冊にまとめました。



学校法人医学アカデミー
薬学ゼミナール

フリーダイヤル **0120-77-8903**
ホームページ <http://www.yakuzemi.ac.jp>
Eメール info@yakuzemi.ac.jp **薬ゼミ 検索**

- 川越教室 ●池袋教室 ●大阪教室
- 渋谷教室 ●八王子教室 ●神戸教室
- お茶の水教室 ●名古屋教室 ●福岡教室

